

寄 附 講 座 の 概 要

- 1 部局名 千葉大学大学院医学研究院
- 2 寄附講座の名称 不整脈先端治療学寄附講座
- 3 設置期間
平成30年10月1日 ～ 令和6年9月30日
- 4 担当教員名及び職名
特任教授 渡辺 弘之
特任教授 藤本 善英
特任講師 中野 正博
特任講師 梶山 貴嗣

5 寄附講座の教育研究領域の概要(カリキュラムを含む。)

本講座設立の趣旨は、日本において心臓病治療に貢献する医療環境及び社会環境を整備し、心臓病に悩む患者に対し最先端の医療技術を提供できる医療環境をもたらし、我が国の医療・福祉に貢献することである。

具体的には、

- 1) 不整脈及び心臓デバイス治療を専門に行う医師を養成し、不整脈疾患の臨床及び学術面でリードする世界基準の研究者を育てることを目的として、教育・研究活動を行う。
- 2) 臨床においては、関連病院と連携して冠動脈疾患を基礎疾患として有し、不整脈のデバイス治療を必要とする患者を対象とした大規模レジストリー試験を計画し、社会的に大きな影響を有する臨床研究を行う。また、人工補助心臓での治療が可能である高度医療施設であるからこそ集中する重症心不全患者においては、致死的不整脈のハイリスク群であるため、3Dマッピングシステムを用いたカテーテルアブレーションとICD(植え込み型除細動器)のハイブリッド治療を対象とした前向き臨床研究を行う。また、動物実験においても、ドイツのボン大学と連携して心筋細胞の反応速度と致死的不整脈や心不全との関係性を探る研究を行い、心機能と並ぶ予後予測として重要なパラメータを探索する。このように、臨床、基礎ともに社会的影響の大きな研究を推進していく。
- 3) 医療者のみならず心臓病患者や社会への心臓デバイス治療の理解を深めるための啓蒙活動や、社会活動・学会活動を通じて心臓デバイス患者や医療者が直面する種々の問題(デバイス患者の社会復帰・就労に関する問題、自動車運転に関する問題、職場環境や生活環境での電磁干渉に関する問題、死後の火葬に関する問題等)の解決に努める。